

留学

ハンドブック

名古屋外国語大学

NUFS
名古屋外国語大学
NAGOYA UNIVERSITY OF FOREIGN STUDIES

留学・国際交流総合窓口:国際交流部

窓口業務時間	所在地・連絡先
平日(祝日授業日を含む) 9:00am ~5:00pm 休業日:原則として土日・授業日でない祝日、 夏期・年末年始休業期間	名古屋外国語大学国際交流部(コミュニケーションプラザ3F) 電話:0561-75-1756 FAX:0561-75-1757 Email: outbound_gg@nufs.ac.jp ※名古屋外国語大学国際日本語教育 インスティテュートも同事務室内併設

学部生向
2026年度募集
2027年度出発用

海外留学のススメ

名古屋外国語大学に学ぶ皆さんにとって大きなアドバンテージは、海外留学の機会に恵まれていることだと思います。特に、主な留学費用を全額大学が負担する留学費用全額支援制度の存在は、円安やインフレによって留学コストが大幅に増加している中であって、海外留学を志す皆さんの強い味方となるはずです。この留学ハンドブックには、留学費用全額支援制度をはじめ、本学の留学プログラムの具体的な内容、留学するための準備、留学の手続き、留学計画の作り方など、皆さんが本学で海外留学にチャレンジするために必要なことが網羅されています。まずは海外留学への第一歩として、この留学ハンドブックを読んでみてください。海外留学に対して皆さんがなんとなく抱いているイメージがよりリアルなものに変わってくるはずです。

皆さんが海外留学に抱くイメージは様々だと思いますが、認識していただきたいのは、海外留学は決して平たんな道ばかりではないということです。留学中に言葉の壁にぶつかり、文化の違いにこれまで味わったことのない戸惑いを感じることも少なくないと思います。慣れない環境で孤独や挫折を経験することも一度や二度ではないはずです。

しかし、異なる言語、文化を持つ人々との出会いや、多様な考え方に触れる体験は、皆さんの視野を飛躍的に広げてくれます。また、様々な困難や障壁を乗り越えることを通して培われる柔軟性や自立心、問題解決力は、将来にわたって皆さんの人生を支える大きな力となるでしょう。

この留学ハンドブックが、皆さんが自信をもって海外留学への第一歩を踏み出す一助になれば幸いです。皆さんが海外留学を経て「世界人材」として力強く羽ばたかれることを心より祈っています。

国際交流部長 若尾 晃弘

CONTENTS

はじめに

1. 留学ハンドブックを読む前に 3
2. 留学のための前準備 4
3. NUFUの留学プログラム紹介 5
4. あなたにおすすめのプログラム 5
5. 留学プログラムの複数回参加 7
6. 留学情報の集めかた 8

長期留学

1. 長期留学プログラムの概要 9
2. 留学費用 16
3. 長期留学に応募するために 17
4. 渡航までの手続き 21
5. 留学先の決定 23
6. 単位認定 26
7. 留学計画の作り方 27
8. 留学と就職活動 31
9. 名古屋外国語大学学生海外留学規程 33
10. 留学情報を提供する公的機関 35

短期・中期留学

1. 短期留学の概要 37
2. 中期留学の概要 38
3. 短期・中期留学プログラム一覧 39

代表者海外派遣プログラム 41

国内留学(東京外国語大学への留学) 42

個人による海外活動 43

留学以外の国際交流 44

Q&A 45

このハンドブックは2026年度募集・2027年度出発用として作られたものです。留学制度や留学候補生の応募条件など、年度によって変わることがありますので予めご了承ください。

1. 留学ハンドブックを読む前に

留学ハンドブックの使い方

この留学ハンドブックは、どの留学プログラムがあなたに合っているのか、いつからどんな準備を始めればいいのかなど、あなたが留学するためのヒントを教えてくれるガイドブックです。留学に行きたいと思ったらまずこの留学ハンドブックを読んでください。留学への道筋がきっと見えてくるはずですよ。

用語の定義

半年留学	本学における1セメスター相当の期間、もしくは250~300時間の授業時間を有するコースに留学することです。6か月間留学することではありません。
1年留学	本学における2セメスター相当の期間、もしくは500~600時間の授業時間を有するコースに留学することです。12か月間留学することではありません。
留学開始時の学年	「2年次以上」とは留学「出発学期」において、本学に在学して3学期目以降であることを意味します。同様に、「2年次2期」は4学期目、「3年次1期」は5学期目、「3年次2期」は6学期目を意味します。なお休学期間は在学歴に数えられません。
協定校	本学と学生交流協定を締結している海外の教育機関のことです。
留学区分としての英語留学	英語の語学コースを履修する留学、そして英語で開講される学部授業を履修する留学の両方を「英語留学」と呼びます。英語圏以外での留学でも、上記に当てはまれば英語留学です。フランス語留学、中国語留学も同様です。

世界情勢の変化と留学

本学では、留学中の学生の安全を確保するために、外務省海外安全ホームページに示される「国・地域別の海外安全情報」において、危険情報レベル2（感染症を含む）以上の国・地域への留学は原則として認めていません（表参照）。また、レベル1の国・地域であっても、海外安全ホームページで安全確保に懸念が示されている場合などには、留学を許可しないこともあります。

なお、示されている危険情報レベルはあくまで現在の状況を示しているにすぎず、いつ何時情勢が変わって危険情報レベルが引き上げられるかもしれないということに注意する必要があります。本学はすでに、2020年3月に新型コロナウイルスの世界的な流行により、留学に派遣していた多くの学生を急遽途中帰国させざるをえなかったという経験をしています。新型コロナウイルスの影響が一段落し、海外留学は完全に復活していますが、世界情勢は残念ながら安定とは真逆の方向に向かっているのが実情です。現在何ら安全上問題のない国であっても、世界情勢の急変や新しい感染症の流行によって、渡航中止や途中帰国の指示が出る可能性があることは否定できません。

外務省海外安全情報危険レベル・感染症危険レベルのカテゴリー

レベル1	十分注意してください。
レベル2	不要不急の渡航は止めてください。
レベル3	渡航は止めてください。（渡航中止勧告）
レベル4	退避してください。渡航は止めてください。（退避勧告）

2. 留学のための前準備

留学の目的を明確にする

NUFSには、バラエティに富んだ留学プログラムがそろっています。あなたに合ったプログラムを選ぶためには、留学で何を学びたいのか、留学を通じてどのように成長したいのかを明確にすることが重要です。留学で実践的な英語力を身につけ将来は航空業界に進みたい、海外でホスピタリティについて学び将来は観光などサービス産業で働きたい、といった具体的な目標を立てましょう。「海外生活を送ること」だけを留学の目的としていると、海外へ渡航した時点でそれを達成してしまい、実りのある留学生活は送れません。



留学するのは“自分である”という意識を持つ

留学、特に長期留学を実施するにはこなすべき多くのステップがあります。例えば、各種説明会に参加する、書類を作成・提出する、留学先機関や関係業者に連絡を取る、などが挙げられます。プログラムの実施部署はそのための案内や説明を行います、それらを実行し留学に参加するのはあなた自身です。参加条件を満たし、申込を済ませれば、あとは自動的に理想の留学が叶えてもらえる、という事はありません。当事者意識をしっかりと持った上で、留学に申し込んでください。



家族の理解・協力を得る

留学には、保証人署名や同意を必要とする書類提出が不可欠です。奨学金申請のために家計状況の調査にご協力いただく場合もあります。そのため学生自身のみの判断では留学への参加は困難です。留学計画を考える際には、ご家族によく相談し、ご理解を得た上で手続きを進めるようにしてください。



帰国後について考える

留学を通して得た語学力や経験は、帰国後の学生生活や卒業後の人生、キャリアにどう活かせるでしょうか。留学の準備段階から帰国後のプランについてもよく考えを巡らせ、その成功のために必要な要素を獲得できる留学を模索してください。留学と就職活動の兼ね合いについてはp31を参照してください。



3.NUFSの留学プログラム紹介

プログラム	概略	期間
長期留学	長期留学には6つの種別があり、留学先国・地域、教育機関、期間、履修コース等、各自の希望と実力に応じた留学プランを実現できます。海外の高等教育機関に最短半年、最長2年間の留学をします。	最短:半年 最長:2年
中期留学 短期留学	プログラム毎に指定された機関にて語学研修や就労体験、ボランティアに参加します。中期留学は1セメスター、短期留学は春期・夏期長期休暇を利用して行います。短期留学はグループで行動し、引率教員が付き添います。	中期: 1セメスター 短期: 夏期/春期休暇
代表者派遣	学外の団体が主催する海外プログラムです。本学の代表としてふさわしい優秀な学生を若干名派遣します。	夏期・春期 長期休暇
国内留学	本学学生の身分を維持したまま、東京外国語大学において1年間の学修を行います。	1年
休学中の留学	本学の制度を用いず、休学中に個人的に行う留学の案内は国際交流部では行っていません。各自の責任において準備・手配を行う必要があります。	指定なし

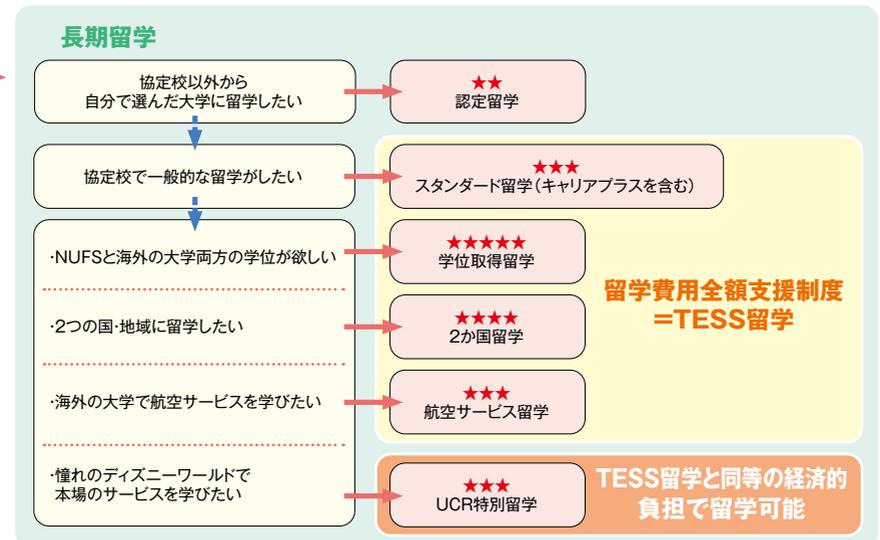
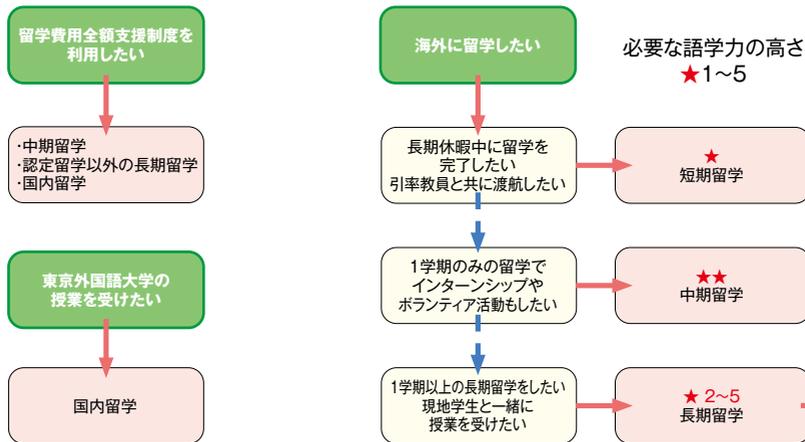
学籍	留学先	単位認定	奨学金	就労体験・ボランティア	主幹部署	参照
在学	協定校※	有	有	一部有	国際交流部	p9
在学	プログラム毎に指定	有	有	中期:有 短期:一部有	学部・学科	p37
在学	プログラム毎に指定	無	有	無	学外団体	p41
在学	東京外国語大学	有	有	無	教務課	p42
休学	指定なし	無	無	指定なし	学生個人が手配	p43

※ 協定校

協定校とは、本学と学生交流協定を締結している海外の教育機関のこと。なお長期留学の種別のひとつである認定留学の留学先は協定校に限らない。詳しくはp15を参照。

4.あなたにおすすめのプログラム

YES →
NO →



5. 留学プログラムの複数回参加

以下は留学プログラムに複数回参加するにあたっての注意点です。複数回参加を希望する場合、自身の留学目的や勉強計画を十分検討してください。

合計留学期間と単位認定の上限

海外留学プログラムは学部の修業年限である4年間の中で行わなければなりません。また、4年間のうち2年間は必ず本学で学ばなければなりません。つまり本学の制度を利用して留学できるのは、合計2年間で上限という事です。また、本学以外で取得した単位(留学中に取得した単位を含む)を本学の単位として読み替えることができる上限は60単位です(以上文部科学省の規定)。

その規程に抵触しない限りにおいては、留学プログラムに複数回参加することは可能です。

2回目の留学奨学金について

上記の合計留学期間および単位認定に関する規程の範囲内であれば、在学中に長期留学とその他の留学プログラム(国内留学、中期留学、短期留学)を組み合わせる事は可能です。ただし、組み合わせによっては後半の留学参加時には補助金や奨学金が支給されないケースがあります。

○:支給あり ×:支給なし

組み合わせ	奨学金・補助金の支給有無	
	1回目	2回目
長期留学→短期留学 短期留学→長期留学	○	○
長期留学→中期留学 中期留学→長期留学	○	○
長期留学→中期留学(TESS) 中期留学(TESS)→長期留学	○	×
長期留学→長期留学	○	×
長期留学→国内留学 国内留学→長期留学	○	○

長期留学を含まない組み合わせ(短期×短期、短期×中期、国内×中期など)は、各プログラムの主幹部署へお問い合わせください。

2回目の長期留学申込手続きについて

2回目の長期留学(TESSI~IV、UCR特別、認定留学)へ参加を希望する場合、必ず1回目の留学から帰国し、帰国後の所定の手続きをした後、2回目の応募手続きをしなければなりません。現地に居ながら2回目の手続きを進めたり、1回目終了後に帰国せずそのまま2回目のプログラムに参加することはできません。

6. 留学情報の集めかた

1. このハンドブックを読み込む

本ハンドブックには特に長期留学について詳しく記載されています。長期留学の学内選考応募~候補生になるまでに必要になる情報は、このハンドブックを読めば網羅できます。

2. NUFS Portalを毎日チェック!

NUFS Portalの確認は、留学情報の収集にも欠かせません。説明会の案内や候補生選考の発表は主にNUFS Portalを通して通知されます。

また長期留学に特化した専用サイトもあります。留学先大学の詳細や帰国生の報告書など、有益な情報がたくさん載っています。※NUFSアカウントでのログインが必要です。



3. 国際交流部をたずねる

長期留学は国際交流部という部署が管轄しています。ハンドブックやNUFS Portal、関連サイトをみても分からない事があれば、お気軽に国際交流部へおたずねください。対面、電話に加え、メール、Zoomなどオンライン上でも相談に対応しています。



国際交流部 日進キャンパス コミュニケーションプラザ3F
Tel : 0561-75-1756
Email : outbound_gg@nufs.ac.jp

※長期留学以外の留学プログラムについては、P39~p40に記載の主幹部署へお問い合わせください。

1.長期留学プログラムの概要

本学には、TESS留学(留学費用全額支援制度)を始め、ウォルトディズニーワールドでの有給実習を含むUCR特別留学、航空業界への就職を目指す人向けの航空サービス留学など、全国的にもユニークな長期留学プログラムが揃っています。以下、本学が誇る各長期留学制度について解説します。

項目 制度	詳細	留学先 教育機関	対象学科	留学期間 ※1	留学 開始時の 学年	奨学金 ※2	留学先 大学 授業料	学籍	留学中の 本学への 学費	単位 認定
T 留 学 制 度	p11	学位取得に関する協定を締結している特定の協定校	英米語学科・フランス語学科 中国語学科・現代英語学科 グローバルビジネス学科 国際教養学科 グローバル共生学科 世界共生学科 世界教養学科 国際日本学科※3	留学先による p11参照	留学先による p11参照	留学費用 全額支援制度	留学先 大学より免除 または 本学支給	在学	要	可
	p12	学生交流協定を締結している協定校	全学	半年 または 1年	2年次 以上 ※4					
	p13			1年 または 1年半						
	p13	セネカポリ テクニク	英米語学科 現代英語学科 グローバルビジネス学科 国際教養学科 グローバル共生学科 世界共生学科 世界教養学科 国際日本学科	半年 または 1年						
T 留 学 制 度	p14	UCR (カリフォルニア大学リバー サイト校)	英米語学科 フランス語学科 現代英語学科 グローバルビジネス学科 国際教養学科 グローバル共生学科 世界共生学科 世界教養学科 国際日本学科	1年		TESS支給額から標準的実習給与を引いた額を支給	本学 支給			
	p15	外国の正規の大学 (付属機関を含む)	全学	半年 または 1年		国・期間別の 定額奨学金 + 海外旅行保険	自己 負担			
私費留学 ※5	p43	問わない	全学	授業 期間外	問わない	無し	自己 負担	休学	不要	不可

※1 留学期間についてはp3「用語の定義」を参照。
 ※2 本学からの奨学金についてはp16を参照。
 ※3 本誌作成時においてフランス語学科生がTESSI(学位取得)留学できる協定校はないため、フランス語学科生はTESSIの対象外となる。
 ※4 国際日本学科生は、2年次2期以上が対象。UCR特別留学は、仏語学科生は3年次1期および3年次2期が、それ以外の対象学科生は2年次2期以上が対象。留学開始時の学年についてはp3「用語の定義」を参照。
 ※5 「私費留学」とは、本学の留学制度を用いず、休学中や長期休暇中に行う留学のこと。比較対象のため掲載した。

TESS留学(留学費用全額支援制度)とは

Total Expenses Support System(費用全額支援制度)、略してTESS留学は、本学の代表的な留学プログラムです。留学の主な費用である下記6つの費用を奨学金から賄うため、通常の留学に比べてかなり少ない経済的負担で留学を実現できます。

- ・留学先大学の授業料:交換協定により免除、または相当額を現物支給。
- ・居住費:留学先大学別の標準的な宿舍費を見積もり、支給する。
- ・渡航費:旅行代理店を通して航空券を現物支給する。
- ・保険料:海外旅行傷害保険料および留学先大学が加入を必須とするものや留学ビザ取得に際して加入が必要なものを支給する。
- ・教科書代:国別の標準金額を支給する。
- ・ビザ申請料

上記以外の費用は学生負担です。p16を参照し、留学にはどのような費用が発生し、どれほどの自己資金を用意しておけばよいのかを事前に考えておきましょう。

これら奨学金の財源は、名古屋外国語大学後援会助成金、独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)海外留学支援制度奨学金などによります。なお、留学費用全額支援制度を利用する場合およびUCR特別留学に参加する場合、JASSO海外留学奨学金の受給対象者となった学生はそれを受給する義務があります。

長期留学をもっと詳しく!

◆長期留学情報サイト

- 渡航までのスケジュール
- 関連イベント情報
- 協定校の詳細
- 帰国生によるリアルな留学先環境や費用などのレポート

すべてここに!
NUFSアカウントでの
ログインが必要です



TESSI (学位取得) 留学

海外の大学で学位取得を目指す

ダブルディグリー(学士)コース

学位取得に関する協定を交わした下記いずれかの協定校にて特定の期間留学し、本学および当該大学の双方の学位取得を目指す制度です。カリキュラムと単位認定の都合上、対象協定校ごとに応募できる学科および学年が定められています。

●ランカシャー大学(イギリス・プレストン市)

留学開始時の学年/留学期間	3年次2期/1年	
対象学科/取得できる学位	フランス語学科、中国語学科、国際日本学科を除く全学科	BA (Hons) International Business Communication

●サザンクロス大学(オーストラリア・リズモア市)

留学開始時の学年/留学期間	3年次1期/1年半	
対象学科/取得できる学位	現代国際学部4学科 世界共生学科	Bachelor of Business and Enterprise

●大連大学(中国・大連市)

留学開始時の学年/留学期間	2年次1期以上/2年	
対象学科/取得できる学位	中国語学科	中国語学文学学士

ディプロマ(修了証)コース

下記いずれかのニュージーランド国立ポリテクニクス4校にて、1年留学で実践的分野のディプロマ(修了証)取得を目指します。

・留学開始時の学年/留学期間…2年次以上/1年

・留学開始学期…各年度1期出発

・対象学科…フランス語、中国語、を除く各学科。ただし国際日本学科はJournalismのみ可能。

派遣先大学	所在地	取得ディプロマ例				
		Business (accounting)	Business (Leadership Management)	Business	Hospitality Management	Journalism
オタゴポリテクニク	ダニーデン市	○	○	—	—	—
クライストチャーチ工科大学	クライストチャーチ市	—	—	○	○	—
ネルソン・マルボロ工科大学	ネルソン市	○	○	—	○	—
ワイカト工科大学	ハミルトン市	○	—	—	—	○

TESSI I(学位取得)留学 注意点

1. 一覧記載の内容は参考のため概要を示したもので、留学先ごとに詳細は異なり、記載事項にも変更が加わる場合がある。
2. TESSIの英語留学においては、学内選考に応募する際に求められるTOEFL ITPのスコアに加え、正規英語試験(TOEFL iBT、IELTSなど)により留学先ごとに指定された語学要件を満たす必要がある。
3. TESSI候補生に採用後、①協定の修正を含む留学先の特別な事情、②留学先の要求する出願要件を満たせない場合、③本学において取得した単位が留学先の必須科目に充分振り替えられない場合などにより、学位取得留学が成立しない場合がある。その際は、TESSIⅡ(スタンダード)として留学できるよう身分の振り替えを行う。
4. TESSI候補生として渡航してきた場合も、留学先の要求する必須科目に合格できない、学位取得に必要な修得単位数を満たすことができないなどの可能性があるため、留学先の学位取得は保証されない。
5. 上記に加え、本学での所属学科の卒業資格を満たすための注意点、また在学中に留学にあてることが認められる期間の上限や、留学を含む学外での履修科目の単位認定上限といった制約(p7参照)もあるため、TESSI(学位取得)留学を検討する学生はできるだけ早期に国際交流部に事前相談すること。

TESSIⅡ(スタンダード)留学

最も代表的な留学

長期留学の中で最も参加者が多い、本学の代表的な留学制度です。世界中にある協定校へ半年または1年間留学します。

現在TESSIⅡの枠組みの中でインターンシップを含むキャリアプラスコースを試験的に運用中です。過年度はアメリカ・オレゴン州でのホテルプログラム、オーストラリアでのコアラ病院プログラムを実施しました。

対象学科	全学科
留学開始時の学年	2年次以上(国際日本学科は2年次2期以上)
留学期間	半年または1年を選択
奨学金	TESS奨学金支給項目を全額支給 詳しくはp16参照
留学先大学	本学の協定校のうち、専攻言語で留学できる大学候補生になった後に公表される留学先大学一覧から希望を複数選び、本学がその中から配当先を決める。詳しくはp23参照

注) 留学開始時の学年、および留学期間についてはp3「用語の定義」を参照。

TESS III (2か国) 留学

2つの国・地域で学べる

2つの国(または地域)の協定校に、合計1年間または1年半留学できる画期的な制度です。「専攻言語2か国」に留学するタイプA、「専攻言語+複言語(英・仏・中国語)それぞれ1か国」に留学するタイプBがあります。

対象学科	全学科(国際日本学科はタイプAのみ可)
留学開始時の学年	2年次以上(国際日本学科は2年次2期以上)
留学期間	1年(半年+半年)または1年半(半年+1年/1年+半年)を選択
奨学金	留学費用全額支援制度 詳しくはp16参照
留学先大学	異なる国・地域に位置するふたつの協定校候補生になった後に公表される留学先大学一覧から希望を複数選び、本学がその中から留学先大学を指定する。詳しくはp23参照
タイプ	<p>●タイプA(専攻言語×専攻言語) 自身の専攻言語で異なる国・地域に留学することにより、その言語運用能力を高めるとともに異文化理解を深める。ただし国際日本学科においては「複言語である英語×複言語である英語」となる。 例:アメリカ×イギリス、アメリカ×オーストラリア、フランス×ベルギー、中国×台湾など</p> <p>●タイプB(専攻言語×複言語) 専攻言語と複言語を組み合わせるパターン。組み合わせ可能な言語は、英語、フランス語、中国語のいずれか。専攻言語と複言語の渡航の順番は学生が選択できる。複言語での留学は半年のみ可能。 英語専攻の学生の例:イギリス(専攻)×フランス(複言語)、アメリカ(専攻)×中国(複言語)など フランス語専攻の学生の例:フランス(専攻)×イギリス(複言語)など 中国語専攻の学生の例:中国(専攻)×アメリカ(複言語)など</p>

TESS IV (航空サービス) 留学

本格的な「航空サービス」を海外で学ぶ

航空サービス業界への就職を希望する学生向けの留学制度です。協定校であるカナダのセネカポリテクニクにて、半年または1年間、航空サービスについて集中的に学ぶことができます。

対象学科	英米語学科、現代英語学科、グローバルビジネス学科、国際教養学科、グローバル共生学科、世界共生学科、世界教養学科、国際日本学科
留学開始時の学年	2年次以上(国際日本学科は2年次2期以上)
留学期間	半年または1年を選択
奨学金	留学費用全額支援制度+制服代を支給 詳しくはp16参照
留学先大学	セネカポリテクニク(カナダ・トロント市)
履修コース	<p>英語力や留学期間に応じて、3つのコースを用意</p> <p>●コースA 1年留学。前期、後期ともに航空サービス関連科目※を履修。一定の要件を満たせば、オンタリオ州政府公認修了証が交付される。</p> <p>●コースB 1年留学。前期は英語集中コース、後期は航空サービス関連科目を履修する。</p> <p>●コースC 半年留学。航空サービス関連科目を半年履修する。</p> <p>※航空サービス関連科目の例:「客室乗務員実務—規程と手続」「客室乗務員実務—安全対策」「グラウンドスタッフの仕事」など。教員はカナダ航空などの現役社員。授業中は制服着用が義務。</p>

UCR特別留学

就業実習を通して
接客力と英語力を磨く

協定校であるアメリカのカリフォルニア大学リバーサイド校(UCR)が実施するプログラムに参加し、語学やホスピタリティの授業を学びながら、ウォルトディズニーワールドでの有給実習に取り組むことができる、1年間の留学制度です。

対象学科	英米語学科、フランス語学科、現代英語学科、グローバルビジネス学科、国際教養学科、グローバル共生学科、世界共生学科、世界教養学科、国際日本学科
留学開始時の学年	2年次2期以上(フランス語学科は3年次1期または3年次2期のみ)
留学期間	1年
奨学金	TESS支給額(p16参照)から標準的実習給与を引いた額を支給
留学先大学	カリフォルニア大学リバーサイド校(アメリカ・リバーサイド市)
要件	<p>将来、ホスピタリティ、ツーリズム関係の業界を目指す学生を対象としており、TESSの条件に加え、①サービス業に深い関心があること、②積極的で社交的な性格であること、③寮の部屋を他の学生と共有できることが応募の条件 ※フランス語学科生がUCR特別留学に参加する際は、単位認定の都合上、渡航前の履修科目に制限がつく場合がある。詳しくは学科事務室に相談すること。</p>
履修コース	<p>●留学前半…英語集中講義 10週間、UCRで高度な英語力を磨く。 クラス分けテストの結果次第で「ビジネス英語コース」、「上級会話コース」「一般コース」のいずれかを履修。</p> <p>●留学後半①…ホスピタリティ・観光マネジメントコース 実習に備えて、UCRで2週間「ホスピタリティ・観光マネジメント入門」科目を履修。</p> <p>●留学後半②…ディズニー国際カレッジプログラム ウォルトディズニーワールドに移動し、以下によって構成される国際カレッジコースを履修。 ・WDW内での有給実習(売店、飲食、販売、アトラクション案内、ライフガードなど) ・ディズニー国際カレッジが提供する科目(ディズニー企業研究、上級顧客サービス管理など)から1科目選択 ・UCRが提供するオンライン科目(マーケティング戦略、リーダーシップ、消費者心理など)から1科目選択</p> <p>上記の科目について一定の成績を収めた学生には、UCRより権威ある「ホスピタリティ・観光マネジメントコース修了証」が交付される。</p>

(注) 留学開始時の学年、および留学期間についてはp3「用語の定義」を参照。



認定留学

選考基準が比較的容易で
自由度が高い

外国の正規の大学またはその付属機関に、本学の許可を得て半年または1年間、留学する制度です。この制度の最も大きな利点は、学生が留学先をある程度自由に、かつ協定校以外から決められることです。

留学費用全額支援制度の対象プログラムではありませんが、本学から定額の奨学金が支給されます。

対象学科	全学科
留学開始時の学年	2年次以上(国際日本学科は2年次2期以上)
留学期間	半年または1年
奨学金	留学先国別に定められた定額奨学金を支給 アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、アイルランド: 1年留学60万円/半年留学30万円 その他の国・地域: 1年留学20万円/半年留学10万円 別途、海外旅行傷害保険も現物支給
留学先大学	学位授与資格のある教育機関、およびその付属機関であれば、本学の協定校以外からも選択可能。ただし相対的に安全確保が困難とされる大都市や、治安・衛生状態が悪い国や地域は認められない。 留学先の選定についてはp23参照
注意点	認定留学は本学と協定校との間に結ばれた協定に則って派遣する留学ではないため、留学先大学からは個人留学生として扱われる。 個人留学生としての出願手続きは、交換留学生のそれとは異なるため、国際交流部がサポートできることは少なく、認定留学生は各自の責任において出願手続きをする必要がある。(一般的な留学のアドバイスや協定校のある国・地域の基本情報の提供等は状況に応じて行うことが可能。)

注) 留学開始時の学年、および留学期間についてはp3「用語の定義」を参照。



オーストラリア・パース©2022年度派遣学生

2.留学費用

NUFSからの奨学金

留学費用全額支援制度(TESS)では下表で○がついている項目を、認定留学では留学先国別に定められた定額奨学金を支給します。なおUCR留学では、TESS支給額から標準の実習給与を引いた額が支給されます。

支払い時期	項目	TESS奨学金支給対象	認定留学
主に渡航前に発生	語学試験検定料		◇定額奨学金を支給 アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、アイルランド: 1年留学60万円/ 半年留学30万円 その他の国・地域: 1年留学20万円/ 半年留学10万円
	パスポート申請料		
	ビザ申請料	○	
	旅行用品(スーツケース等)		
	各種書類発行料・予防接種		
	出願手数料	○	
	渡航費	○	
主に渡航後に発生	交通費(手続きのための移動)		
	留学先授業料	○(支給又は免除)	
	宿舍費	○	
	現地保険	○	
	教科書代	○	
	交通費(日常生活・旅行)		
	食費		
	通信費		
雑費(学用品・娯楽費・交友費・被服費)			
海外旅行保険	○	○	

自己負担する費用はいくら?

留学費用の総額から上記奨学金支給額を引いた金額が学生の自己負担分となります。留学にかかる費用は、どのような留学制度・留学先でどういった生活を過ごすかによって大きく異なり、個々の学生によって数百万円の違いが生じることもありえます。そのため、具体的な金額を一概に示すことはできません。

上記の表と以下の情報源を参考に、ご自身が希望する希望する留学モデルの費用を算出してみてください。

●NUFS長期留学情報サイト>過去資料

✓帰国生報告書>所要経費調査:

本学の帰国生が実際に留学中に支払った宿舍費、食費、雑費(日用品・旅行含む)、教科書代、航空券、授業料を掲載。

✓協定校情報>過年度の留学先大学一覧:

協定校の基本情報と公式HPのURL。認定留学で発生する現地授業料は各大学の公式HPから確認。



●(独)日本学生支援機構の「海外留学情報サイト」

国別のおおまかな学費や物価情報のほか、文化風習や治安などの基本情報も掲載。



3.長期留学に応募するために

学内選考への応募スケジュール

本学は2学期制であり、各学期に長期留学の応募受付期間が設けられます。応募から渡航までの大まかなスケジュールは次の通りです。学内選考へ応募してから渡航までは約1年を要します。

	1期応募	2期応募	担当・問合せ先
全学募集説明会	4月	9月	国際交流部
学内選考応募書類提出 ※学科により手順や時期が異なる	4月～6月	9月～11月	所属学科 (航空サービスおよび UCR特別留学のみ国際交流部)
候補生発表	7月	12月	国際交流部
留学先決定	8月末	1月末	
出願手続き p21参照	8月末～渡航まで	1月末～渡航まで	
渡航日	応募の翌年度1期 1月～6月	応募の翌年度2期 8月～11月	

各種説明会の詳しい日程はNUFS Portalや学内掲示にて通知されます。候補生発表以降の詳しい流れはp21を参照してください。

長期留学に必要な7つの条件

- 1.留学時に学部2年次以上に在学していること
(一部の留学種別およびコースでは別途対象学年が指定されている。詳細はp9参照)
- 2.留学目的及び留学計画が明確であること
- 3.人物が優れていること
- 4.学業成績が優秀であること(定義はp18参照)
- 5.留学に耐えうる健康状態であること
- 6.十分な外国語能力を有すること(定義はp18-20参照)
- 7.留学に当たって、保証人の承諾を得ていること



イギリス・オックスフォード©2023年度派遣学生

4つ目の条件「学業成績」について

長期留学に応募するためには、応募時点で通算GPA(=入学時から応募時の前の学期までの通算の成績)が下記基準以上であることが必要です。通算GPAはNUFS Portalから確認できます。なお1年次1期に応募する際はGPAが算出されていないため、出願時点では仮採用とし、GPAが算出された時点で改めて基準に達しているかを確認の上で本採用となります。

	留学の種類
GPA2.4以上	TESSI(学位取得)留学、TESSIII(2か国)留学
GPA2.0以上	TESSII(スタンダード)留学、TESSIV(航空サービス)留学、UCR特別留学、認定留学

6つ目の条件「十分な外国語能力」について

留学のためには次の2つの語学スコアが必要です。必要に応じて各種語学試験を受験してください。

①学内選考に応募するための語学力…詳しくはP19

長期留学の学内応募に際し、英語留学の場合はTOEFL(ITP)、フランス語留学の場合はTCF、中国語留学の場合は中国語検定と、それぞれ指定の語学試験の結果が求められます。必要な語学力は、次ページ記載の通り留学制度と対象学科ごとに定められています。これらのスコアは学内選考に応募する時点でこの条件を満たしている必要がある(※)ので、長期留学に行くことを決めたら、計画的に語学力アップに取り組んでください。

※TCF及び中国語検定は、その試験実施日の都合により、応募書類提出締切までにスコア結果が届かないことがある。その場合、基準を満たすスコアが届くまでは条件付き候補生として扱われる。

②留学先への出願のための語学力

見事学内選考を通過し留学候補生になったら、次は留学先大学に出願します。その際、留学先大学・履修コースによっては学内選考に提出したものよりさらに上位のスコア、あるいは別の語学試験のスコアの提出を求められます。例えば英語圏の協定校へ出願する場合、TOEFL(ITP)スコアが認められる事もありますが、TOEFL(iBT)、IELTSなどの正規語学試験のスコアを要求する大学も少なくありません。またイギリスのビザ取得のためにはIELTS for UKVI academicの一定の点数が必要とされるケースがほとんどです。このスコアは、学内選考に応募する時点では持っていなくても構いません。

このように、留学先への出願に必要な語学力は大学や履修コースによって異なります。留学先別の基本情報と必要語学スコアの一覧は、候補生となった後に配付されます。過年度の一覧は「長期留学情報サイト」から閲覧できます(p10参照)。

学内選考に応募するための語学力

TESSI、II、IV、認定留学

=任意のスコア2枚の平均を提出
それ以外はスコア1枚提出

学科	留学区分	試験	点数基準			
			TESSI (学位取得)	TESSII (スタンダード)	TESSIV (航空サービス)	認定
英米語	英語	TOEFL (ITP)	550	510	510	450
フランス語	フランス語	TCF	320	300		250
中国語	中国語	中国語検定	3級(165点)	3級(155点)		3級(スコア不問)
現代英語	英語	TOEFL (ITP)	550	510	510	450
グローバルビジネス	英語	TOEFL (ITP)	550	510	510	450
国際教養	英語	TOEFL (ITP)	550	510	510	450
グローバル共生	英語	TOEFL (ITP)	550	510	510	450
世界共生	英語	TOEFL (ITP)	550	510	510	450
世界教養	英語	TOEFL (ITP)	550	510	510	450
国際日本	英語	TOEFL (ITP)	550	510	510	450

TESSⅢ(2か国)留学

学科	専攻言語×専攻言語		専攻言語×複言語		専攻言語×複言語	
	留学区分	語学基準	留学区分	語学基準	留学区分	語学基準
英米語	英語×英語	TOEFL550	英語×フランス語	TOEFL510	TCF250	英語×中国語 TOEFL510 中検3級(スコア不問)
フランス語	フランス語×フランス語	TCF320	フランス語×英語	TCF300	TOEFL470	
中国語	中国語×中国語	中検3級(165)	中国語×英語	中検3級(155)	TOEFL470	
現代英語	英語×英語	TOEFL550	英語×フランス語	TOEFL510	TCF250	英語×中国語 TOEFL510 中検3級(スコア不問)
グローバルビジネス	英語×英語	TOEFL550	英語×フランス語	TOEFL510	TCF250	英語×中国語 TOEFL510 中検3級(スコア不問)
国際教養	英語×英語	TOEFL550	英語×フランス語	TOEFL510	TCF250	英語×中国語 TOEFL510 中検3級(スコア不問)
グローバル共生	英語×英語	TOEFL550	英語×フランス語	TOEFL510	TCF250	英語×中国語 TOEFL510 中検3級(スコア不問)
世界共生	英語×英語	TOEFL550	英語×フランス語	TOEFL510	TCF250	英語×中国語 TOEFL510 中検3級(スコア不問)
世界教養	英語×英語	TOEFL550	英語×フランス語	TOEFL510	TCF250	英語×中国語 TOEFL510 中検3級(スコア不問)
国際日本	英語×英語	TOEFL550				

UCR特別留学

学科	語学基準
中国語学科を除く全学科	以下①を出願時に、②を学内面接通過後に提出 ①TOEFL (ITP) 任意のスコア2枚の平均510 ②2年以内に取得したDuolingo 85、IELTS 5.5(5.5)、TOEFL IBT 71のいずれか

注1) 学内選考に利用可能なスコアは指定の語学試験に限る。TOEFL (ITP) については、学内実施のもののみ対象。詳しくはp20を参照すること。
注2) 表内の「中検」は、中国語検定を指す。「中国語検定3級(スコア不問)」は3級に合格していれば、そのスコアは問わないものとする。
注3) 国際日本学科について、専攻言語は複言語(英語)のことを指す。

語学試験各種

<TOEFL (ITP)>

TOEFL (ITP)とは、英語力を測るペーパー式の語学力テストです。大学や企業など団体単位で実施されます。学内選考に応募するには、下記期間内に学内で実施されたTOEFL (ITP)のスコア提出が必要です。学外で受験したのもや、その他の英語語学力試験のスコアは受け付けられません。

なおTOEFL (iBT)が正式なものであるのに対し、TOEFL (ITP)は模擬試験の性格を持ちます。留学候補生になり、協定校に出願する際には、別途TOEFL (iBT)やIELTSのスコアが必要な場合があります。

2026年度は年6回のTOEFL (ITP)試験を予定し、受験料の一部を補助しています。大学の授業にくわえて、メディア情報・データ科学センターが開講しているTOEFL講座も活用して語学力アップに努めましょう。

2026年度名古屋外国語大学 TOEFL (ITP)実施予定

実施回	試験日	実施時間	2027年度 1期発に利用可能	2027年度 2期発に利用可能	申込受付期間	受験料 (予定)
第133回	5月 9日(土)	午前または午後 ※申し込み後、 大学から指定	○	○	4月13日(月) 9時～ 4月17日(金) 16時	1,970円
第134回	5月30日(土)		○	○	4月27日(月) 9時～ 5月 1日(金) 16時	
第135回	7月 4日(土)			○	6月 8日(月) 9時～ 6月12日(金) 16時	
第136回	9月 5日(土)			○	7月20日(月) 9時～ 7月24日(金) 16時	
第137回	10月10日(土)			○	9月21日(月) 9時～ 9月25日(金) 16時	
第138回	2027年1月9日(土)				12月 7日(月) 9時～ 12月11日(金) 16時	

注1) 受験対象者や申込方法などの詳細は、各試験の申込開始前にNUFS PortalとMARUZEN語学試験サイトに掲示します。
注2) 上記について、諸事情で中止になった場合、再試験は行いません。
注3) 申込者が500人を超えた場合、午前と午後の2部制とします。受験希望者は終日の予定を確保しておいてください。

2027年度1期・2期出発 海外留学候補生の出願に利用可能なTOEFL (ITP)スコア実施回(実施日)

出発時期	留学募集時期	実施回(実施日)
2027年1期発	2026年1期	第121回(2024.5.18)～第134回(2026.5.30)
2027年2期発	2026年2期	第124回(2024.9.7)～第137回(2026.10.10)

<IELTS>

IELTS (International English Language Testing System)は、留学や就労のために利用される英語技能テストです。学内選考に応募する際には不要ですが、候補生になったあと、留学先への出願時に必要になる場合があります(p18参照)。

本学ではJSAF主催のIELTS学内試験を9月中旬、3月中旬の年2回実施しています。なおイギリス留学者の多くはIELTS for UKVI academicのスコア提出が求められます。その場合、学内で実施するIELTSスコアは利用できないため、学外の機関で受験する必要があります。TESS候補生のうち、配当された留学先への出願にIELTSスコアが必要な学生を対象に、IELTS academic、またはIELTS for UKVI academicの受験料を在学中1回に限り補助します。

<TCF>

TCF (Test de connaissance du français)とは、フランス教育省によって行われるフランス語能力試験です。回答選択方式のテスト形態で、世界共通規格によって実施され、6等級区分(A1、A2、B1、B2、C1、C2)のいずれかに等級付けられます。

本学では、年2回(5月、10月頃)TCFの学内試験を実施します。また、学外(アリアンス・フランセーズ愛知フランス協会等)で受験したスコアも学内選考への応募に利用可能です。詳細はフランス語学科事務室(1号館4階)にてお問い合わせください。(アリアンス・フランセーズ愛知フランス協会) <http://www.afafa.jp>

<中国語検定試験>

一般財団法人日本中国語検定協会が実施する正規の中国語検定試験で、準4級、4級、3級、2級、準1級、1級の合計6級が設定されています。年に3回(一部の級を除く)実施されており、本学では、MARUZEN(コミュニケーションプラザ内)が窓口となり受験の受付をしています。詳細は中国語学科事務室(1号館3階)にお問い合わせください。(一般財団法人日本中国語検定協会) <http://www.chuken.gr.jp/>

4. 渡航までの手続き

候補生発表から渡航までのスケジュール

ステップ		1期出発	2期出発
学内選考 p17参照			
①	候補生発表 オリエンテーション	7月末	12月末
②	留学先の決定	8月末	1月末
③	留学先への出願手続き 宿舍手配	8月末～渡航まで	1月末～渡航まで
④	ビザ申請		
⑤	航空券・海外旅行保険申込		
⑥	渡航	1月～6月出発	8月～11月出発

注) 渡航時期は、留学先大学の授業期間に応じて異なります。

①各種説明会・書類提出

国際交流部では、留学候補生に対し複数回の説明会を行います。そこでは本学の留学制度を利用して留学する上で必要不可欠な情報を提供します。また留学手続きにおいては、学生の皆さんが国際交流部だけでなく、留学先大学や大使館等、関係業者へ書類や各種データを提出する機会が多くあります。その際は必ず指定の提出方法と期限を順守してください。

説明会への出席や書類の提出が正しく行われなかった場合、重要な手続きが受理されず、留学に支障がでる可能性があります。さらにそれが続く場合には留学候補生としてふさわしくないと判断され、その身分を取消されることもあります。留学候補生となった暁にはスケジュール管理には十分に注意してください。

①候補生発表とオリエンテーション

学内選考の結果は、NUFS Portalにて発表します。候補生発表の数日後には参加必須のオリエンテーションが実施されますので、必ず参加してください。詳しい日程は、学内選考応募受付時期に行われる、国際交流部からの全学募集説明会にて案内します。

②留学先の決定

留学候補生として採用された後に、具体的な留学先を選定します。その方法についてはp23から詳しく説明します。

③留学先への出願手続き・宿舍手配

留学先の配当が発表されたら、その機関への出願手続きが始まります。TESS留学とUCR特別留学の場合、協定校別に国際交流部の職員が担当に就きます。担当からの指示に従い、必要な書類作成や申込を進めてください。認定留学の場合は、留学先大学の公式HPを見ながら各自で手続きを行います。出願手続きの締切は留学先大学によって異なりますが、渡航の3か月前がおおよその目安です。遅くともそれまでには出願に必要な語学スコア(p18参照)を取得できるようにしてください。

④ビザ申請

留学先大学から入学許可証が届いたら、次はビザ申請をしましょう。本学と協定校とで結んだ協定下で行う出願手続きとは異なり、ビザ発行機関と本学は特別な協力関係にはありません。そのため、ビザ申請に関して本学が当局との間に入って交渉することも、公式に公開されていない情報を提供する事もできません。留学種別(TESS、UCR、認定留学)に関わらず、ビザ申請は各自の責任において行う必要があります。料金はかかりますが、民間のビザ申請代行エージェントの利用を検討しても良いでしょう。

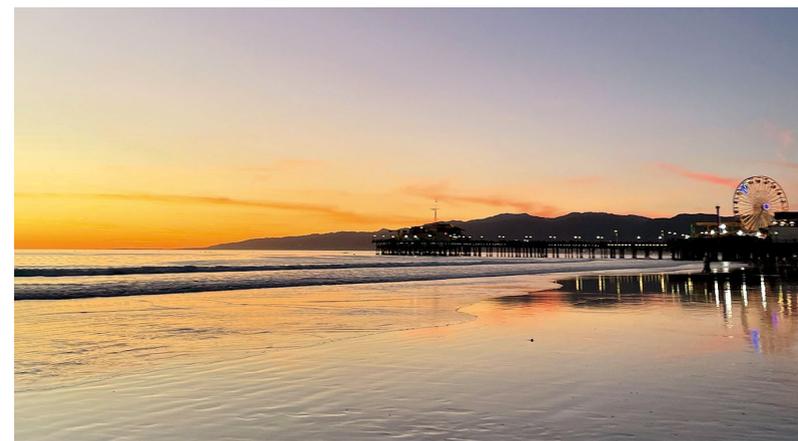
⑤航空券・海外旅行保険申込

留学先でのオリエンテーション日や宿舍への入居日が定まったら、航空券を取得しましょう。本学の留学規程上、出発日は授業開始日の一週間前以降、帰国日は授業最終日の一週間後以前に設定する必要があります。また長期留学生は全員、本学指定の海外旅行保険に加入する必要がありますが、その費用は本学が負担します。

具体的な申込手順については候補生を対象とした説明会内で案内します。

⑥渡航

すべての準備が整ったらいよいよ渡航です！健康と安全第一に充実した留学生活を送ってください。



アメリカ・ロサンゼルス©kiki

5. 留学先の決定

留学先はどのように決められるか

以下3つの留学制度では留学先が指定されています。

- TESSI (学位取得): p11記載の各大学
- TESSIV (航空サービス): セネカポリテクニク
- UCR特別: カリフォルニア大学リバーサイド校

一方、上記以外の留学制度の候補生は、下記の手順で留学先の選定を行います。

- TESSII (スタンダード) および TESSIII (2か国):
 1. 候補生発表後に、協定校の内、その出発学期に派遣可能な大学一覧※が公開される。
※授業期間、履修可能コース、必要語学スコア等が記載されている。
過去の派遣大学一覧は、「長期留学情報サイト」から閲覧可能 (p10参照)。
 2. 候補生はその中から留学希望の協定校を複数選択する。
 3. 学生の学修成績、語学力、希望動機等を鑑みて、本学が留学先を配当する。
TESSIII (2か国留学) の場合は、1~3を2度行う。

● 認定留学:

1. 学位授与資格のある海外の教育機関、およびその附属機関から留学先を自身で選定する。
本学の協定校以外からも選択可能※。
※相対的に安全確保が困難とされる大都市や、治安・衛生状態が悪い国や地域は認められない。
2. 希望の留学先と履修コースについて「認定留学期間承認伺い書」にまとめ、国際交流へ提出する。
3. 本学はその伺い書をもとに、プログラム内容に不足ないか、また治安・安全面において問題が無いかなどを考慮し、留学先として適切かを判断する。
4. 本学の承認が得られれば、その機関への出願手続きを進めることができる。

留学先の選び方

では、世界中に数多くある大学の中から、どのように希望の留学先を絞ればよいのでしょうか。

選ぶ基準としては、主に下記が挙げられます。

- 履修コースと必要な語学力
- 出発時期・帰国時期
- 国・地域 (英語圏、ヨーロッパ、アジア等)
- 文化 (言語、宗教、習慣、歴史)
- 環境 (気候、都会/地方、アクセス)
- 費用 (授業料、生活費、居住形態) ※主に認定留学の場合に影響

あなたの優先事項は?

どの項目をより重視するかは人によって異なります。就活の為に早い帰国が最優先事項の人であれば、現地の学生と学部科目を履修する事が目標の人、非英語圏に行き自分だけの留学経験をしたい人など、事情は様々です。自身の留学の目的と、優先すべき事項は何かをよく考えましょう。

各大学の情報の探し方はp25を参照してください。

留学先で履修するコースについて

1. 英語を学ぶ? 英語で学ぶ?

外国語「を」学ぶのか、外国語「で」学ぶのか、わずか1字の違いですが留学の内容は大きく変わります。

例えば英語を学びたい場合、外国人向けに開講される英語コースを履修します。文法やリーディング、発音など、英語力をブラッシュアップする為に特化した科目が提供されています。クラスメートの多くは様々な国から来ている留学生です。これを「**語学留学**」と呼びます。

一方、英語で学ぶ場合は、文学、経済学、経営学等の学部科目を現地の学生と一緒に学びます。もちろん授業は英語で開講されるため、授業の内容を理解できるだけの高い英語力を求められます。これを「**学部留学**」と呼びます。

また留学期間が1年である場合、1学期目を「語学留学」し、2学期目を「学部留学」とする事も可能です。

ただし学べる言語は所属学科の専攻言語に限ります。例えば英語専攻の学生が、韓国に留学した場合、留学先では英語で開講される科目を履修します。韓国語の学修を主な目的とした留学はできません。

留学中の履修タイプ	何を学ぶ?
語学留学	専攻言語 (英語、フランス語、中国語) 「 を 」しっかり学ぶ
学部留学	専攻言語 (英語、フランス語、中国語) 「 で 」文学、経済学、経営学など学部授業を受講する
語学+学部留学	専攻言語 (英語、フランス語、中国語) 「 を 」学んで語学力をブラッシュアップしてから、専攻言語 (英語、フランス語、中国語) 「 で 」学部授業を学ぶ

※国際日本学科を除き、専攻言語による学部授業を大半履修することを前提に、留学先の言語 (複言語) を学ぶことも可能です。
※英語の語学コースを履修する留学、そして英語で開講される学部授業を履修する留学の両方を「英語留学」と呼びます。英語圏以外での留学でも、上記に当てはまれば英語留学です。フランス語留学、中国語留学も同様です。

※TESSIII (2か国) 留学のタイプB (専攻言語×複言語) であれば、複言語 (英語、フランス語、中国語に限る) で半年間留学をすることが可能です。



留学先大学の情報の集め方

留学先の情報について調べる際は、下記の情報を活用しましょう。

協定校	<p>◆協定校の公式HP</p> <p>NUFS公式サイトに協定校名とその公式HPが掲載されています。</p> 
	<p>◆長期留学情報サイト ※NUFSアカウントでのログインが必要です</p> <p>帰国生報告書</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓所要経費調査書…留学開始後3か月間に支払った各種経費 ✓履修登録報告書…現地でどんな科目を履修したか ✓学習成果報告書…学習成果や内面の成長についての振り返り ✓生活環境調査書…留学先大学や宿舍の設備、受入体制、生活環境に関する報告 <p>協定校情報>留学先大学一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓履修可能コース(語学/学部) ✓出願語学要件 ✓渡航時期、帰国時期 ✓居住形態、所在地 など  
協定校以外 (認定留学の場合)	<p>◆留学情報を提供する公的機関 (p35参照)</p>
	<p>◆留学手続き代理店</p> <p>認定留学生は各自でホームページ等から留学先に問合せ、その指示に従って出願手続きを進めます。</p> <p>それらをゼロから個人で行うには自信がないという場合、留学手続き代理店(エージェントとも呼ばれます)に手続きの代行やサポートを依頼しても良いでしょう。もちろん費用は発生しますが、より確実に準備を行う事ができます。</p> <p>※本学では代理店の斡旋・紹介は行っていません。</p>

6. 単位認定

- 1 留学先で取得した単位は、本学の卒業に必要な単位として認定を受けることができます。認定される単位は、2年留学の場合は60単位、1年半留学の場合は46単位、1年留学の場合は30単位、半年留学の場合は16単位を上限として、未修得の授業科目に振り替えます。
- 2 単位の認定を受けるためには、原則として留学先において修得した科目の内容及び時間数が本学開講科目と合致することが必要です。例えば複言語プログラム科目を単位認定するためには、留学先で専攻言語以外の言語の科目の修得が求められます。
- 3 単位認定は、帰国後、学生からの申請により本学での審議を経て行われます。帰国後1か月以内に申請の手続きを取ってください。
- 4 留学先での成績が奮わず、帰国後に十分な単位認定をできなかった場合、支給された海外留学奨学金の一部または全額の返納を求めることがあります。
- 5 単位認定の詳細は、候補生を対象とした説明会内で説明します。留学を検討する際には、留学する学年や単位修得状況などについて、学科の担当教員(外国語学部生、世界教養学部生は所属学科の教務委員、現代国際学部生、世界共生学部生はクラスアドバイザー)に相談してください。



オランダ©2023年度派遣学生

7. 留学計画の作り方

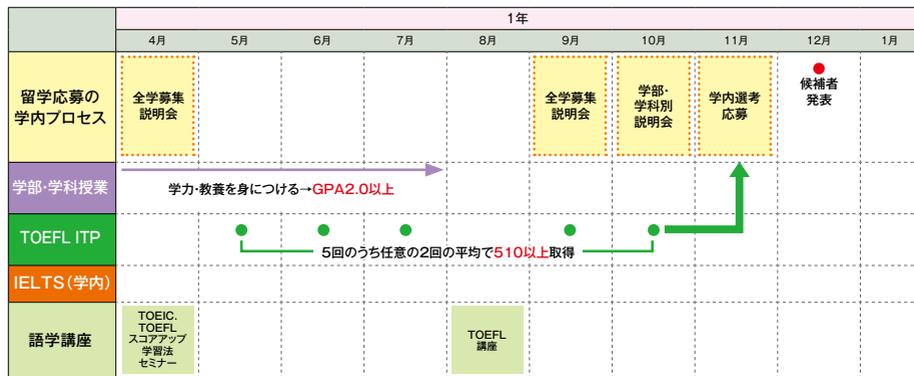
目指す留学プログラムが決まったら、留学のスケジュールを含めた大学生活のプランを立ててみるのか、留学期間はどのようにするのか、就職活動はいつごろからどうやって始めればいいのかなどをよ

しょう。留学に応募するまでに何を準備すればいいのか、どうやって語学力を伸ばすのか、いつ応募く考えてください。ここでは、代表的な長期留学のスケジュールの一例を挙げます。

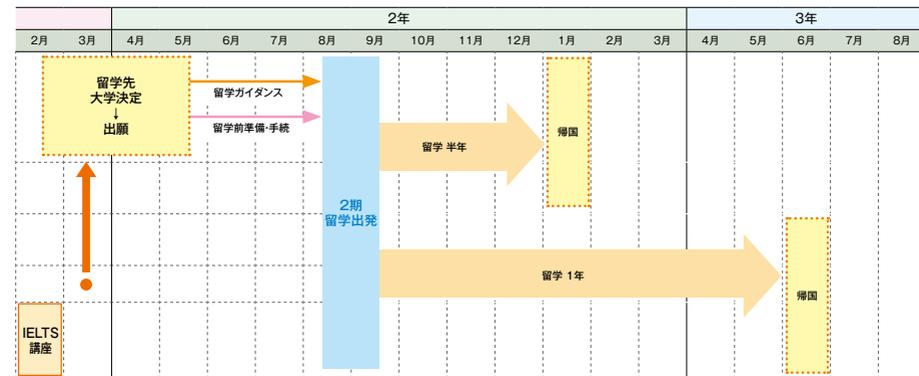
TESSII(スタンダード)留学のスケジュール例

〈2年次2期出発で英語留学する場合〉

2年生の2期に出発するためには、図のように1年次2期の学内選考に応募してください。1年生の時間がないので、夏期休暇中に開講されるTOEFL講座を受講して語学力を強化することも考



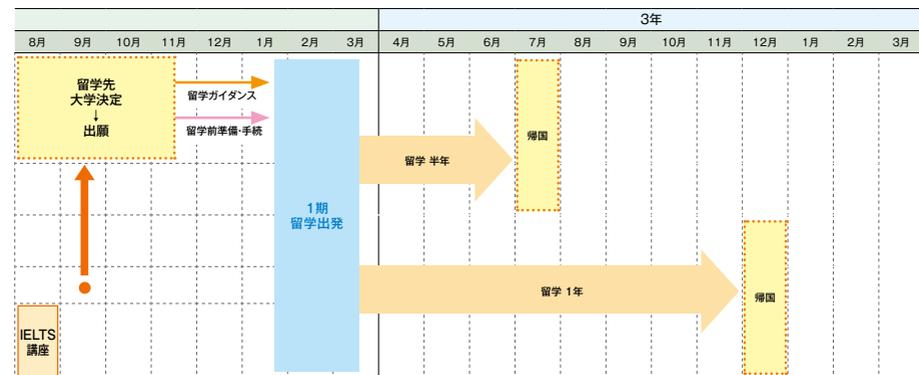
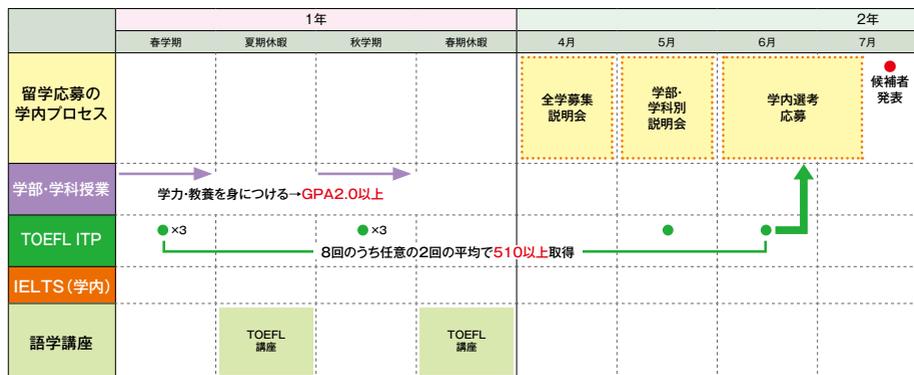
10月までに行われる計5回の学内TOEFL ITPで必要なスコアを得る必要があります。入学後あまりえてみましょう。



〈3年次1期出発で英語留学する場合〉

3年生1期に出発するためには、図のように2年次1期の学内選考に応募してください。6月までの2回、計8回の学内試験のスコアを利用できます。

に実施されるTOEFL ITPでスコアを得る必要があります。1年次中に実施される6回と2年次で



UCR特別留学のスケジュール例

UCR特別留学については、学内の選考を通過後、UCRとディズニー国際カレッジスタッフに

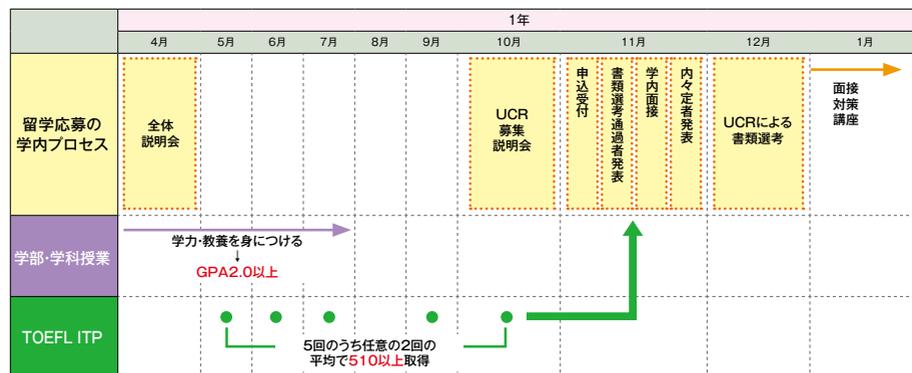
①留学応募

2年次2期にUCR留学へ出発するには1年次2期に、3年次1期に出発するには2年次1期に学内選考に応募してください。応募窓口は所属学科ではなく、国際交流部です。

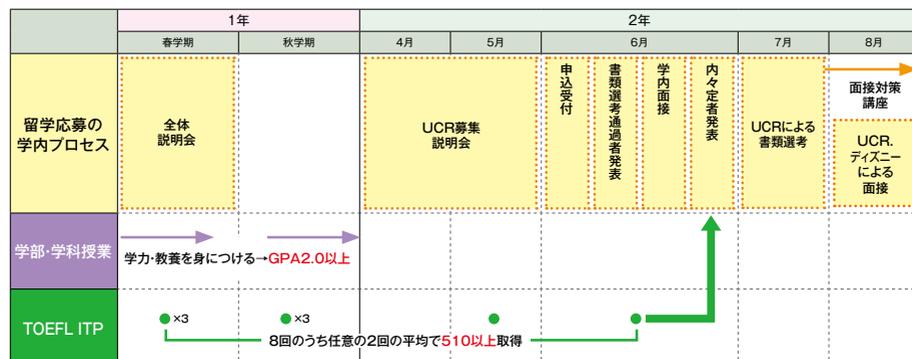
③留学準備～留学出発

最終面接に合格し内定が決まったら、渡航のための準備を始めます。ビザ申請やディズニー国際カレッジへの手続きなど慌ただしい日々が続きます。学期後半から渡航までは、英語のコミュニケーション能力向上やホスピタリティ・ビジネスの基礎知識習得等を目的とした留学事前授業を受講します。

〈2年次2期でUCRに渡航する場合〉



〈3年次1期でUCRに渡航する場合〉



よる面接を受ける必要があり、応募手続きがTESS留学とは若干異なります。

②学内面接～留学候補生決定

応募者はまず学内面接を受けます。それに合格すると、次はUCRによる書類選考を、最後にUCRとディズニー国際カレッジ担当者による最終面接を受けます。最終面接の前には面接対策講座が開講されるので、しっかり準備して臨みましょう。

④留学～帰国

UCRでは10週の語学コースを履修した後、経営学やホスピタリティなどについて2週間の集中講義を受けます。これが終わると、いよいよディズニーワールドに移動して約6か月間の有給実習です。



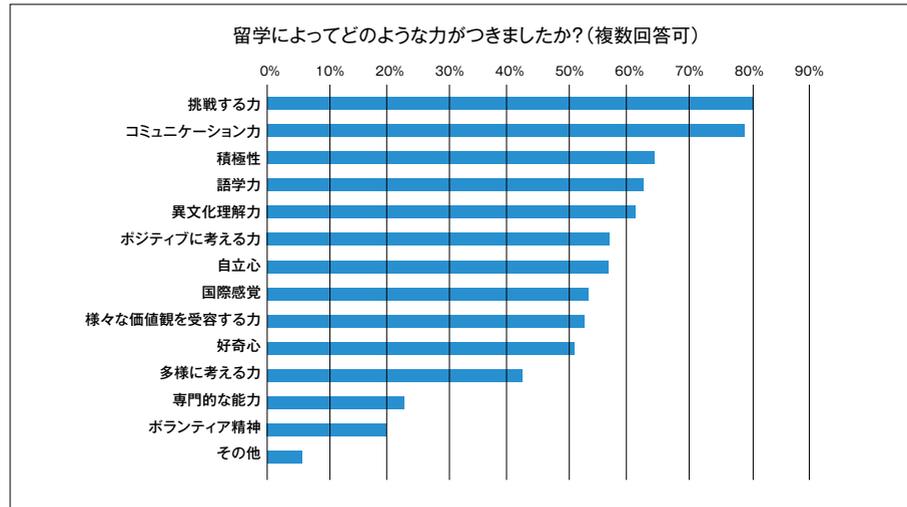
8.留学と就職活動

留学は就職に不利?それとも有利?

就職活動時期の変化と留学

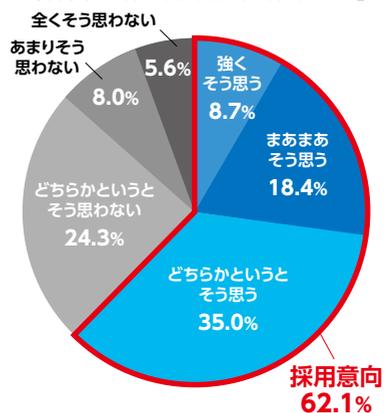
就職活動スケジュールは早期選考をはじめの企業が増えるなど、毎年状況が変わっています。状況に応じて留学スケジュールを決める必要があります。就職活動スケジュールが早まった場合は、より早い時期に留学を済ませておく、あるいは内定後に留学する、という選択肢が考えられます。企業の採用活動は、現在「早期化」と言われる一方、「長期化」とも言われており、帰国が遅めでもチャンスが残っていることも多くみられます。

留学と就職



留学はしっかりとした目的意識を持って臨めば、皆さんが飛躍的に成長する絶好の機会です。留学で得られる力は、語学力にとどまらず、挑戦する力、コミュニケーション力、積極性など多岐にわたります。こうした力は、実際に社会に出てから役立つ能力と一致するケースが多く、就職活動においても企業が評価するポイントと重なっています。留学を経験した学生に対する企業の評価も以前とは変わって、「留学経験者を積極的に採用していきたい」という企業も多くなっています。必要な人材を必要な時期に採用する通年採用が今後広がっていけば、留学時期をあまり気にする必要はなくなり、留学の成果を企業が正しく評価するようになっていくと考えられます。ただし、それは同時に留学の成果を問われるということでもあります。留学に対する取り組み姿勢、留学で得た成果を自分の言葉で相手に伝えられることがより重要になってきます。

採用担当者の留学経験者採用についての姿勢
「留学経験者を今後積極的に採用したい」



(資料)トビタテ!留学JAPAN
「就職活動と留学に関する意識調査 大学生721名と企業の採用担当412名より有効回答」より

就職活動のスケジュール

一般的なスケジュールと今後の傾向

項目	3年						4年											
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
●学校行事	●定期考査 ●夏休み						●定期考査 ●春休み						●定期考査 ●夏休み ●院試					
①インターンシップに参加	夏期			冬・春期														
②自己分析	興味・能力・価値観の整理																	
③仕事研究	業界・企業・職種の研究																	
④エントリー							エントリー											
⑤企業説明会							企業説明会											
⑥ES・筆記試験・面接							エントリーシート						筆記試験・面接					
⑦内々定													内々定					

本来のスケジュールは、図のように3年生の3月に就職説明会や企業エントリーが開始、4年生の6月以降に内々定というものです※。これに先立って実施されるインターンシップは、3年次以降で5日間以上、就業体験を含むことを条件とし、選考において参加者の情報が利用される場合があります。2018年10月には、日本経済団体連合会(経団連)が従来の就職活動ルールを廃止を発表、以降の主導は政府に引き継がれることになりました。いまのところ政府も「当面はこれまでの就活ルールに沿った採用スケジュールを踏襲する」としています。しかしながら、実際の選考は、上の表の点線のよう外資系の企業や準大手の企業を中心に前倒しで実施している場合も多く、すでに3年生の3月、4年生の4月の段階で内々定を得ている学生も多くみられます。逆に、4年生になってから帰国する留学経験者を採用するために、6月下旬以降に、東京でバイリンガル学生を対象とした大規模な採用イベントが開催されたりもしています。

※2029年春入社の採用活動ルールについて政府内で見直しを検討されています。

留学スケジュールと就職活動のしかた

出発時期	帰国時期	就職活動のしかた	
2年1期出発(半年)	2年5月~8月	帰国してからの就職活動準備で流れに乗ることができます。現地の人や世界中の人と積極的に触れ合い、留学中でしかない課題を乗り越えて、自分の性格や適性に向き合い、将来何がしたいのかを考えましょう。	
2年1期出発(1年)	2年2期出発(半年)	2年11月~2月	
2年2期出発(1年)	3年1期出発(半年)	3年5月~8月	3年次夏期のインターンシップに参加するためには、帰国のスケジュールを確認し、留学先からWebで応募できるものがないかを調べてみましょう。エントリー書類の添削や面接の練習はCSセンターがWeb対応することができます。帰国後の3年次2期からは学内で就活サポート行事が多く開催されているので参加しましょう。
3年1期出発(1年)	3年2期出発(半年)	3年11月~2月	CSセンターの就活サポート行事の中には、オンラインやオンデマンドに対応しているものもあるので活用ください。冬・春期のインターンシップやオープンカンパニーなど、帰国後に(あるいは留学中でもオンラインで)参加できるものに申込をするのもいいでしょう。ナビサイトには、自己分析や業界&企業研究、履歴書、Webテストなどの対策ができるコンテンツもあり、帰国前に就職活動準備をしておくことができます。
3年2期出発(1年)	4年1期出発(半年)	4年5月~8月	冬・春期のインターンシップには参加できませんが、1日や数時間のオンラインイベントなどもあるので興味のある企業のものを探してみましょう。実状として、3年次冬くらいから早期選考(書類選考や採用面接等)を実施する企業が増えています。ここで採用を終了せず、6~7月くらいまで採用を継続する企業も多くありますし、それ以降に新規あるいは再度募集をはじめの企業もあります。焦らずに、できる準備をしましょう。留学経験者を対象とした採用イベントもあります。
4年1期出発(1年)	4年2期出発(半年)	4年11月~2月	出発前に就職先が決定していることがベストです。帰国後は、採用定員を満たしていない企業や内定辞退があった企業などで募集が行われている企業を受験することができます。「外国語ができる人材」を求めている企業が、本学に直接求人票を持ち込むこともしばしばあります。

どの時期に留学するとしても、出発前・帰国後はキャリアサポートセンターへ相談するようにしましょう。



留学中の相談フォーム
<https://cscenter.nufs.ac.jp/>

9.名古屋外国語大学学生海外留学規程

(趣旨)

第1条 名古屋外国語大学(以下「本学」という。)における留学については、名古屋外国語大学学則第26条第5項が規定するもののほか、この規程の定めるところによる。

(定義)

第2条 この規程において「留学」とは、外国(地域を含む。以下同じ。)の大学(外国における正規の高等教育機関で、学位授与権を有するものをいう。以下同じ。)における学修で、本学が教育上有益であると認めたものをいう。

(留学の種類)

第3条 留学の種類は、次のとおりとする。

- 一 留学費用全額支援留学
 - イ TESS留学(学位取得)(略称:TESSI)
 - ロ TESS留学(スタンダード)(略称:TESSII)
 - ハ TESS留学(2か国)(略称:TESSIII)
 - ニ TESS留学(航空サービス)(略称:TESSIV)
 - 二 認定留学
 - 三 UCR特別留学
- 2 前項第1号のイからニまでの規定にあるTESSIはTotal Expense Support Systemの略称である。
- 3 第1項各号の留学に関する事項は、この規程が定めるもののほか別に定める。

(資格)

- 第4条 留学をする学生は、次の各号に掲げる条件をすべて満たしていなければならない。
- 一 留学時に学部2年次以上に在学していること。この場合、第3条第1項に規定する留学のうち、次のイ及びロに掲げる留学については、それぞれが定める学生でなければならない。
 - イ TESSIII 学部の学生
 - ロ TESSIV及びUCR特別留学 本学が指定する学科に所属する学生
 - 二 留学目的及び留学計画が明確であること。
 - 三 人物が優れていること。
 - 四 学業成績が優秀であること。
 - 五 留学に耐え得る健康状態であること。
 - 六 十分な外国語能力を有すること。
 - 七 留学先の大学の入学許可証を有すること。
 - 八 留学に当たって、保証人の承諾を得ていること。
- 2 前項第4号及び第6号の基準は、国際交流委員会及び大学評議会の議を経て学長が定める。

(出願手続)

- 第5条 留学をしようとする学生は、所定の期日までに、次の各号に掲げる書類を所属する学科又は研究科へ提出しなければならない。
- 一 留学願
 - 二 留学計画書
 - 三 その他国際交流部が必要と認める書類

(留学の許可)

第6条 留学の許可の決定は、国際交流委員会及び所属に係る教授会又は研究科会議の議を経て、学長が行う。

(留学期間及び時期)

- 第7条 留学期間は、第3条第1項に規定する留学の種類に応じて次の各号に掲げるとおりとする。
- 一 留学費用全額支援留学
 - イ TESSI 一年以上2年以内
 - ロ TESSII 半年以上1年以内

- ハ TESSIII 一年以上1年半以内
- ニ TESSIV 半年以上1年以内
- 二 認定留学 半年以上1年以内
- 三 UCR特別留学 1年

2 留学時期は、最短の修業年限以内で留学が完結するように定めるものとする。

(留学期間中の学費)

第8条 留学期間中における本学の学費は、全額納入するものとする。

(奨学金)

第9条 この規程により、留学を許可された学生(以下「留学生」という。)に対しては、海外留学奨学規程(2014年規程第11号)の定めるところにより、奨学金を支給する。

(履修手続)

第10条 留学生は、渡航前に留学に関する履修上の諸手続をするものとする。

(届出)

第11条 留学生は、国際交流委員会が定めるところにより、留学の渡航前は留学開始届、留学中は中間報告書、留学を終えて帰国したときは帰国届を、それぞれ国際交流部に提出しなければならない。

(単位の認定)

第12条 留学により履修した授業科目は、所定の手続きにより、帰国後、単位認定の申請をしなければならない。

(留学の中止)

第13条 留学期間中に特別の事情により留学を取り止める場合は、国際交流委員会の議を経て、学長の許可を受けなければならない。

(留学許可の取消及び処分)

- 第14条 留学許可決定後に、次の各号の一つに該当する場合は、留学許可を取り消すとともに、事情によっては、学則の規定に基づいて処分を行うものとする。
- 一 提出書類に虚偽の記載がある場合
 - 二 許可なく留学途中で留学期間、留学先等を変更した場合
 - 三 その他学生としての本分に反した場合

(細則)

- 第15条 この規程に定めるもののほか、留学の実施に関し必要な事項は、国際交流委員会の議を経て国際交流部長が定める。
- 2 国際交流部長は、前項の規定により定めた事項については、これを評議会に報告しなければならない。

附 則

- 1 この規程は、2014年7月7日から施行し、2016年度の留学から適用する。
- 2 第3条第1項に規定する留学のほか、2015年度までに学部に入学者については、交換留学を加えて、この規程を適用する。この場合、第7条第1項が定める留学期間は、半年以上1年以内とする。
- 3 名古屋外国語大学学生海外留学規程(平成6年4月1日施行)は、2016年3月31日を限りに廃止する。ただし、2015年度以前に係る留学については、なお効力を有する。

附 則

この改正は、2022年4月1日から施行する。

10. 留学情報を提供する公的機関

世界各国・地域

● 独立行政法人日本学生支援機構 (JASSO)

留学生事業部 留学情報課
TEL:03-5520-6111
HP: <http://ryugaku.jasso.go.jp/>

● 名古屋国際センター (NIC)

TEL:052-581-0100 (情報カウンター).
052-581-0102 (ライブラリー)
HP: <http://www.nic-nagoya.or.jp/>

アイルランド

● 駐日アイルランド大使館

TEL:03-3263-0695
HP: <http://www.dfa.ie/irish-embassy/japan/>

アメリカ

● 日米教育委員会 (フルブライト・ジャパン)

HP: <https://www.fulbright.jp/>

● 在日米国大使館と領事館

HP: <https://jp.usembassy.gov/ja/>

イギリス

● ブリティッシュ・カウンシル

HP: <https://www.britishcouncil.jp/>

イタリア

● 在日イタリア大使館

TEL:03-3453-5291
E-mail: ambasciata.tokyo@esteri.it
HP: <https://ambtokyo.esteri.it/ja/>

インドネシア

● 駐日インドネシア共和国大使館

TEL:03-3441-4201
HP: <https://kemlu.go.id/tokyo/lc>

ウクライナ

● 在日ウクライナ大使館

HP: <https://japan.mfa.gov.ua/ja>

オランダ

● 在日オランダ王国大使館

HP: <https://www.orandatowatashi.nl/>

オーストラリア

● 在日オーストラリア大使館

TEL:03-5232-4111
HP: <http://japan.embassy.gov.au/>

オーストリア

● 在日オーストリア大使館

HP: <https://www.bmeia.gv.at/ja/oeb-tokio>

カナダ

● 在日カナダ大使館

TEL:03-5412-6289
HP: <https://www.international.gc.ca/country-pays/japan-japon/tokyo.aspx?lang=eng>

韓国

● 駐日本国大韓民国大使館

TEL:03-3452-7611~9 FAX:03-3452-7420
HP: <https://overseas.mofa.go.kr/jp-ja/index.do>

シンガポール

● 在日シンガポール大使館

HP: <https://www.mfa.gov.sg/Overseas-Mission/Tokyo/JP/Tokyo-JP>

スイス

● 在日スイス大使館

TEL:03-5449-8400 FAX:03-3473-6090
HP: <https://www.eda.admin.ch/countries/japan/ja/home/representations/embassy.html>

スウェーデン

● 在日スウェーデン大使館

TEL:03-5562-5050
HP: <https://www.swedenabroad.se/ja/embassies/japan-tokyo/>

スペイン

● 駐日スペイン大使館

TEL:03-3583-8531.3583-8532
FAX:03-3582-8627
E-mail: emb.tokio@maec.es
HP: <https://www.exteriores.gob.es/Embajadas/tokio/ja/Paginas/index.aspx>

台湾

● 台北駐日経済文化代表処

TEL:03-3280-7811
HP: <http://www.roc-taiwan.org/JP/>

● STUDY IN TAIWAN

HP: <http://www.studyintaiwan.org/>

チェコ

● 駐日チェコ共和国大使館

TEL:03-3400-8122
HP: <https://www.mzv.cz/tokyo/ja/index.html>

中国

● 中華人民共和国駐日本国大使館

TEL:03-3403-3388 (代表)
HP: <http://jp.china-embassy.gov.cn/jp/>

● 中華人民共和国大使館 教育処

TEL:03-3643-0305 (代表) FAX:03-3643-0296

デンマーク

● 在日デンマーク王国大使館

TEL:03-3496-3001
E-mail: tyoambcom@um.dk
HP: <http://japan.um.dk/ja>

ドイツ

● 在日ドイツ連邦共和国大使館

TEL:03-5791-7700 (代表) FAX:03-5791-7773
HP: <https://japan.diplo.de/>

● ドイツ学術交流協会

TEL:03-3582-5962.3584-0726
FAX:03-5791-7703
E-mail: daad-tokyou@daad.jp.com
HP: <https://www.daad.jp/ja/>

ニュージーランド

● 駐日ニュージーランド大使館

TEL:03-3467-2271 FAX:03-3467-2278
HP: <https://www.mfat.govt.nz/en/countries-and-regions/asia/japan/new-zealand-embassy>

● エデュケーション・ニュージーランド

HP: <https://www.studyinnewzealand.govt.nz/jp/>

ハンガリー

● 駐日ハンガリー大使館

TEL:03-5730-7120
HP: <https://tokio.mfa.gov.hu/jpn>

フィンランド

● 駐日フィンランド大使館

TEL:03-5447-6000
HP: <https://finlandabroad.fi/web/jpn/ja-mission>

フランス

● 在日フランス大使館

TEL:03-5798-6000 (代表)
HP: <https://jp.ambafrance.org/-/Japonais->

● フランス政府留学局・日本支局

TEL:03-5206-2740
HP: <http://www.japon.campusfrance.org/ja>

ベトナム

● 駐日ベトナム大使館

HP: <https://vnembassy-jp.org/ja>

ベルギー

● 在日ベルギー王国大使館

TEL:03-3262-0191 FAX:03-3262-0651
HP: <https://japan.diplomatie.belgium.be/en>

ポルトガル

● 駐日ポルトガル大使館

HP: <https://toquio.embaixadaportugal.mne.gov.pt/ja/>

ポーランド

● 駐日ポーランド共和国大使館

TEL:03-5794-7020
HP: <https://www.gov.pl/web/nippon/Embassy>

マレーシア

● 駐日マレーシア大使館

HP: https://www.kln.gov.my/web/jpn_tokyo

ロシア

● 在日ロシア連邦大使館

TEL:03-3583-4224 FAX:03-3505-0593
HP: <https://tokyo.mid.ru/jp/>

● STUDY IN RUSSIA

HP: <https://studyinrussia.ru/en/>



1.短期留学の概要

短期留学には大きく分けて、語学のスキルアップを主な目的とした「語学研修」と、就労体験やボランティア等の実地体験を主な目的とした「海外実習」の2種類があります。

主幹部局は国際交流部ではなく、各学部・学科です。所属学科実施のプログラムだけでなく、他学科が提供するプログラムへ参加可能な場合もあります。

プログラムの種類や概要はp39を参照してください。

- ✓ 留学期間:夏期または春期の長期休暇中
- ✓ 対象者:各プログラムにより異なる
- ✓ 奨学金:専攻言語のプログラムでは大学から11万円と後援会から1万円、複言語のプログラムでは大学から5万円と後援会から1万円の補助を受けられる(ただし給付はそれぞれ在学中1回に限る)。また、参加プログラムがJASSO海外留学支援制度に採択された場合、参加費用が一層軽減される
- ✓ 危機管理:研修には教員が同行し、参加者は海外旅行傷害保険に加入する
- ✓ 単位認定:一定の成績を収めた参加学生に対し所定の単位が認定される
※一部例外あり

語学研修

研修内容は主に外国語におけるコミュニケーション能力の向上や異文化理解などを目指したものとなっています。はじめて海外に渡航する方や、長期留学準備の第一歩として海外で語学を学びたい方にお勧めです。

海外実習

海外実習は、就労体験・ボランティアの内容に応じて、以下の3種類に分けられます。

海外教育実習

国際日本学科が行っている、外国人に日本語を教える教育実習です。ベトナム、韓国、台湾においてそれぞれ約2週間行っています。

海外エアライン実習

将来航空業界への就職を目指す学生に対して、海外エアライン実習を実施しています。オーストラリア、マレーシアにある客室乗務員のトレーニング施設、中国の国際空港にある航空会社の支店において約10日～約2週間の研修を行う機会が設けられています。

その他の海外実習

その他、多様なインターンシップやボランティア活動等も含んだプログラムが実施されています。目的や留学先はプログラムによって異なります。

2.中期留学の概要

中期留学では、本学の1セメスターを利用し、海外で語学研修と就労体験の両方を行います。一定の成績を修めた学生に対し、所定の単位認定や留学費用の全額または一部補助があります。プログラムの種類や概要はp39を参照してください。

- ✓ 留学期間:本学の1セメスター
- ✓ 対象者:英米語学科、中国語学科、世界教養学科および現代国際学部
- ✓ 奨学金:語学力および成績に応じて、留学費用の一部補助、または留学費用全額支援制度を利用できる
語学力・成績の基準は、長期留学TESSII(スタンダード)のそれに準じる
- ✓ 危機管理:参加者は海外旅行傷害保険に加入する
- ✓ 単位認定:一定の成績を収めた参加学生に対し所定の単位が認定される

各プログラムの詳細は
次ページから!



イギリス・ロンドン©2023年度派遣学生

3.短期・中期留学プログラム一覧

各学部、学科および教務課において下記の留学プログラムを実施予定です。
国際情勢、催行人数未達、受入れ機関の都合等により中止となる可能性もあります。

区分	主幹部局 問合先	プログラム名	派遣先国・地域名	都市名	
中期留学	英米語学科	英米語学科 中期留学	アイルランド	ダブリン	
	中国語学科	中国語学科 中期留学	中国	西安市	
	現代国際学部	現代国際学部 中期留学	ニュージーランド	ハミルトン	
	世界教養学科	世界教養学科 中期留学	オーストラリア	ブリスベン	
短期留学	英米語学科	夏期アメリカ研修	アメリカ	リバーサイド	
		夏期イギリス研修	カナダ	トロント	
		春期オーストラリア研修	オーストラリア	メルボルン	
		春期マルタ研修	マルタ	イムシーダ	
	英語教育専攻	グリフィス大学春期海外インターンシップ研修	オーストラリア	ブリスベン	
	フランス語学科	春期フランス研修	フランス	アンジェ	
	中国語学科	中国語学科夏期海外研修(インターンシップを含む)	中国	北京市	
	現代国際学部	春期ニュージーランド研修	ニュージーランド	ハミルトン	
	グローバル共生学科	春期オーストラリア研修	オーストラリア	ブリスベン	
	世界教養学科	春期シドニー研修	オーストラリア	シドニー	
	国際日本学科	国際日本学科 春期オーストラリア英語研修	オーストラリア	アデレード	
	言語教育開発センター	2026年度 夏期韓国語短期研修	韓国	釜山	
	海外実習	現代国際学部	エアライントレーニング・スタディ(夏期)	マレーシア	ベタリンジャヤ
			地域研究・国際研修プログラム	イタリア	未定
			エアライントレーニング・スタディ(春期)	オーストラリア	ブリスベン
グローバルビジネス学科		グローバルビジネス学科主催 ワークエクスペリエンス研修	オーストラリア	ブリスベン	
世界共生学科		地域創生科目 グローバル・コラボレーション(ネパール)	ネパール	カトマンズ、パネパ	
		地域創生科目 グローバル・コラボレーション(ハワイ)	ハワイ	カウアイ島	
国際日本学科		釜山外国語大学校日本語教育実習	韓国	釜山広域市	
		ハノイ国家大学外国語大学日本語教育実習	ベトナム	ハノイ市	
	銘傳大学日本語教育実習	台湾	桃園市		
教務課	エアライン・インターンシップ(春期)	中国	上海		

研修先機関名	出発時期	期間	受入可の 他学科	語学研修の 有無	語学研修 以外の内容	引率 有無
ダブリンシティ大学	4月上旬	12週間	-	有	有	一部
西安外国語大学	8月下旬	13週間	-	有	有	一部
ワイカト大学	9月下旬	12週間	-	有	有	無
グリフィス大学	8月下旬	12週間	国際日本学科	有	有	一部
カリフォルニア大学リバーサイド校	8月上旬	3週間	仏・中	有	無	全日程
トロント大学	8月上旬	4週間	仏・中	有	無	全日程
オーストラリアン・カソリック大学	2月上旬	5週間	仏・中	有	無	全日程
マルタ大学付属語学学校	2月上旬	4週間	仏・中	有	無	全日程
グリフィス大学	1月下旬	6週間	-	有	有	一部
アンジェ西部カトリック大学	2月上旬	4週間	全学科	有	無	全日程
北京外国語大学	8月上旬	約3週間	全学科	有	有	全日程
ワイカト大学	2月上旬	4週間	仏・中	有	無	全日程
グリフィス大学	2月上旬	5週間	現代英語学科、グローバルビジネス学科、 国際教養学科、世界共生学科	有	有	一部
マッコリー大学	2月中旬	5週間	国際日本学科	有	有	全日程
アデレード大学	2月中旬	5週間	世界教養学部世界教養学科	有	有	全日程
釜山外国語大学校	8月上旬	3週間	全学科	有	有	一部
マレーシア航空(MAB)アカデミー	8月下旬	1週間	全学科	無	有	全日程
サッサリ大学	8月下旬	2週間	-	無	有	全日程
Aviation Australia (Queensland州政府出資施設)	2月中旬	2週間	全学科	無	有	全日程
グリフィス大学	1月下旬	5週間	全学科	有	有	一部
Association for Rural welfare, Nepal(ARSOW-NEPAL)	1月下旬	11日間	全学科	無	有	全日程
Waipa Foundation	2月上旬	12日間	全学科	無	有	全日程
釜山外国語大学校	8月下旬	2週間	全学科(指定されている単位を 修得済みの学生に限る)	無	有	一部
ハノイ国家大学外国語大学	3月上旬	2週間	-	無	有	一部
銘傳大学	3月上旬	2週間	-	無	有	全日程
日本航空上海支店	2月上旬	7日間	全学科	無	有	一部

詳しくはNUFS公式HPの
プログラム紹介文をご覧ください
問合せはプログラム主幹部局へ

各プログラムの詳細と帰国生の体験記



中期留学



短期・語学研修



短期・海外実習

はじめに
長期留学
短期・中期留学
代表者海外派遣
国内留学
個人による海外活動
留学以外の国際交流
Q & A

代表者海外派遣プログラム

本学には大学の代表としてふさわしい優秀な学生を海外へ派遣するプログラムがあります。これらプログラム参加者は、それぞれ若干名で、経費の大半は免除されます。各プログラムの募集案内は、その都度掲示等でご案内します。

過年度実施の代表者海外派遣プログラム

対象	プログラム名称	派遣期間	派遣人数
全学	日本中国文化交流協会大学生訪中団	2025/5/24~5/30	2名
		2025/9/24~9/30	2名
	世界青年の船	2024/1/24~2/22	2名

代表者海外派遣各プログラムの体験記

<http://www.nufs.ac.jp/interchange/related-programs/dispatch/experiences>



帰国報告会について

プログラム派遣後は、参加した学生の報告会を学内で開いています。プログラムの内容や感想など、実体験を聞くことができますので、興味のある方はぜひ報告会に来てください。



2019年度～事業報告会



2023年度日本中国文化交流協会大学生訪中団報告会

国内留学(東京外国語大学への留学)

本学は、言語と地域研究の一大拠点である東京外国語大学と教育交流連携・国際交流連携・研究連携等の幅広い分野にわたる交流協定を締結しています。

この協定に基づき2015年度から、交流連携のひとつとして、教育内容の多様化を図るとともに、「世界教養」(World Liberal Arts)の一層の充実に資するため、本学学生の身分を保有したまま、東京外国語大学において1年間の学修を行う国内留学制度を実施しています。

この制度では、長期留学のTESS(留学費用全額支援制度)のサポートに準じた経済支援が与えられます。さらに、東京外国語大学で修得した単位が30単位を上限に認定されます。

対象は学部2・3年次生で、学業成績・人物が優れ、留学に支障のない健康状態であること等の要件を満たす必要があります。募集人員は3名で、10月下旬に募集説明会を行います。

詳細は教務課(1号館1階)にお問い合わせください。



個人による海外活動について

毎年、皆さんの多くは本学で実施する海外派遣プログラム以外に、卒業後や休学、長期休暇を利用して、旅行、語学留学を含む留学、ワーキングホリデー、インターンシップ、ボランティアなどの海外活動を行っています。これらの活動を行う際、以下の点に留意してください。

本学からの支援

基本的にこれら任意の活動について、本学はプログラムの紹介や斡旋、手配代行などの関与は行っていません（一部、公的機関が企画や実施、後援しているものに限定し、国際交流部の掲示板などで情報提供を行う場合があります）。

内容の検討

参加するプログラムの選択については、内容やサービス、安全面などを十分吟味する必要があります。一般的に公的機関（各国大使館や領事館、政府直轄の教育・文化交流団体など）が企画や実施、後援しているものは信頼性が高いと言えます。安全面については、渡航先の治安や危険度について外務省運営の海外安全ホームページなどを参照の上、注意喚起が発せられた国や地域を避けるなどすべきです。参加にあたっては、ご家族と十分相談の上決めるようにしてください。

参加中の留意事項

参加中は有事の際に備えて、必ずご家族と連絡が取れるよう連絡手段の確保をしておいてください。また、渡航先の安全が脅かされるような事態が発生した際、本学から帰国勧告や指示を行う場合もありますので、予めご了承ください。



イギリス・ロンドン©2023年度派遣学生



オーストラリア・バスケットボール©2022年度派遣学生

留学以外の国際交流

本学では、協定校から交換留学生として毎年多くの学生を国際日本語教育インスティテュートなどに受け入れています。交換留学生たちは、日本語と日本文化を学ぶ目的で留学をしており、日本人学生のみなさんとの交流を望んでいます。国際交流部では、留学生とみなさんが交流できるよう、各種イベントやパーティー、セミナーなどを実施しています。交流を希望する方は、これらに参加したり、以下に紹介する機会を利用し、日常のキャンパスライフにおいて積極的に交流を図ってください。

レジデンスアシスタント(RA)

本学には、留学生用の宿舎として「インターナショナルハウス(アイハウス)」、「NUFSグローバルビレッジ」、「NUFS・NUASレジデンス」の3つの寮があります。国際交流部では、これらの施設にレジデンスアシスタント(RA)として入居を希望する大学院生や学部学生を、年数回募集しています。役割として、日常生活の手助けや、留学生にとって安全で快適な環境作り、緊急時の初動対応などがあります。応募方法などについては、RA募集説明会にて説明します。なお、採用については若干名となりますので、ご了承ください。

ランゲージ・ラウンジ

ランゲージ・ラウンジとは、本学で学ぶ全学生を対象に、決められた時間・場所（主としてコミュニケーションプラザ2Fランゲージ・ラウンジ）において、決められた言語を使い、コミュニケーション能力の育成と外国人留学生等との交流を図ることを目的としたものです。ランゲージ・ラウンジには、英語、フランス語、中国語、日本語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語などがあります。各言語ラウンジの開催スケジュール等は、NUFS Portalで確認してください。



バディ制度

協定大学から交換留学生が来日する時期に合わせて年2回、留学生のバディとなる学生を募集しています。バディは、来日した留学生が本学の学生生活にスムーズに適応する手助けとなるよう友人として支援します。

それぞれの留学生には複数のバディが対応し、グループとして活動することで、個々の学生に大きな負担がかからないように配慮しています。

Q1 本学から年間何人留学していますか？

2019年度実績によれば、中・長期留学者数は280名、短期留学（海外研修）・実習等参加者数は487名合わせて767名が留学をしました。新型コロナウイルスの感染拡大によって2020年度の留学者はゼロとなりましたが、2021年度2期から長期留学は渡航を再開し、2024年度は1期2期あわせて271名が長期留学に出発しました。なお、この数字には、休学や夏期・春期休暇を利用して個人で留学した数は含みません。

Q2 留学しても留年せず卒業できますか？

本学の留学制度（TESSI～IV、UCR特別、認定、中期、国内）のもとで留学する場合、留学期間を卒業に必要な期間に算入し、留学先で取得した単位について年間30単位を上限に卒業単位として認定しています。そのため特別な事情がない限り、修業年限の4年以内で卒業できるでしょう。一方休学して留学する場合は、その間の修業年限算入と単位認定を行いませんので、仮に1年間留学した場合、入学から卒業まで5年間かかることになります。

Q3 短期、中期、長期留学の違いを教えてください。

これら区分について、世間一般では様々な解釈がありますが、本学の場合については以下のよう
に定義付けています。

短期留学…学部や学科単位で実施される夏期や春期休暇を利用した2週間～2か月の語学研修など

中期留学…英米語学科、中国語学科、世界教養学科および現代国際学部で実施している約3か月
（語学研修+就労体験）のもの

長期留学…半年から2年間の留学プログラム（TESSI～IV、UCR特別、認定）

なお、中期留学については、16単位以上単位認定していることから、統計上や区分で長期留学のグループに入れることもあります。

Q4 長期留学の場合、希望する大学へ行けますか？

留学制度により異なります。まず、TESSIV（航空サービス）の場合はセネカポリテクニクに、UCR特別の場合はカリフォルニア大学リバーサイド校にそれぞれ限定されます。TESSII・IIIの場合は、協定大学に偏りが無いよう満遍なく行先を調整する必要があるため、希望調査を行った上で、最終的に本学がみなさんの行先を決定します。認定留学については、専攻言語での留学、かつ、正式な大学（その付属機関を含む）、安全な行先であれば、ある程度自由に決定できます。（本校の許可は必要です。）

Q5 長期留学募集・選考後に基準を満たす語学スコアを取得した場合、追加で採用してもらうことは可能ですか？

いいえ。学内選考に出願する時点で要件を満たしていなければなりません。必要な語学スコア（TOEFL ITP、TOCFまたは中検。詳しくはp19を参照）を学内選考の出願締め切りまでに取得できない場合は、次の学期以降に出願することになります。

Q6 TESSIII（2か国）で留学したい場合、1か国目と2か国目、それぞれ別々に出願できますか？

学内応募に出願する時点で必要な要件（p19参照）を全て満たさなければなりません。例えば専攻言語+複言語の場合、両方の語学基準およびその他必要な学内応募要件を出願時に全て満たす必要があります。

Q7 TESSIII（2か国留学）と複数回留学の違いは何ですか？

TESSIII（2か国留学）は、2か国への留学がパッケージになっており、1回の出願で2か国への留学が可能になります。複数回の留学は、都度出願が必要となります。本学では、複数回の留学を認めていますが、必ず1回目の留学から帰国し、帰国後の所定の手続きをした後、次に参加する留学の出願をしなければなりません。また、留学費用全額支援制度を利用できるのは在学中原則1回です。

Q8 TESSI（学位取得）に参加する場合、留学先の学位は保証されますか？

TESSIで留学しても、留学先の大学で求められる卒業要件を満たさなければ、留学先の学位は取得できません。また、TESSIの候補生に選ばれても、出願に際し留学先の要求する基準に満たない場合や、本学において取得した単位が留学先に十分振り替えられない場合など、TESSIとして留学できない場合があります。その場合は、TESSII（スタンダード）で留学できるよう振替を行います。

Q9 長期留学でビザの取得や宿舎の手配は自分自身で行う必要がありますか？

ビザの取得、宿舎の手配、航空券の申し込みなど留学に関わる手続きは、留学の一部であり、留学に行くあなた自身が行う必要があります。国際交流部は、ガイダンスを通じて留学手続きの進め方について指導しています。留学手続きは決して楽ではありませんが、本学では、自分の力で留学手続きを進めることに大きな意味があると認識しています。

Q10 本学の留学制度を利用した場合の留学費用について教えてください。

本学では、留学する学生に対し手厚い資金的なサポートを実施しています。TESS（留学費用全額支援制度）を利用した場合、留学費用（授業料、渡航費、宿舎費、保険料、教科書代、ビザ申請料）を本学が支給しますので、国や地域によって違いはありますが、食費や小遣いなど留学しなくても必要になる金額程度で留学が可能です。UCR特別についても、TESSとほぼ同程度の費用で留学が可能です。認定留学については、留学費用は自己負担となりますが、一定額の奨学金が支給されます。

Q11 自分の所属学科と留学先の言語の関係について教えてください。

留学先で履修する授業の言語は、TESSⅢ(2か国)以外の留学制度においては、所属学科の専攻言語(国際日本学科の場合は複言語である英語)となります。国際日本学科以外の複言語での留学は、TESSⅢ(2か国)のうちの1か国(地域)において半年間のみ可能になります。

Q12 長期留学における、留学先国・地域別の授業開始時期を教えてください。

北米、英国を含むヨーロッパ、中国・台湾・韓国を含むアジア諸国のほとんどにおいて、秋学期(8月~9月)が開始時期とされます。一方、オーストラリアやニュージーランドなど南半球の場合は、2月(南半球で秋に相当)が新学期とされます。従って本学の長期留学制度のもとで留学する際、1期出発の場合はオーストラリアやニュージーランドが、2期出発の場合は北米、英国を含むヨーロッパ、中国・台湾・韓国を含むアジア諸国がそれぞれ主流になります。

その他、よくある質問と回答を本学の長期留学情報サイトにまとめてあります。(p10参照)



アメリカ・サクラメント©kiki



フランス・アンジェ©2024年度派遣学生

	留学の準備	チェック
留学応募前	留学の目標は決めましたか?	
	留学で何を学ぶか決めましたか?	
	どの留学プログラムにするか決めましたか?	
	いつ留学に行くのか決めましたか?	
	留学期間は決めましたか?	
	語学基準はクリアしましたか?	
	成績基準はクリアしていますか?	
	応募書類を整えましたか?ミスはありませんか?	
留学応募後	期限までに学科の窓口に応募書類を提出しましたか?	
	留学候補生の選考結果は確認しましたか?	
	TESSIV、UCR特別留学に申請した人は学内面接の予定を確認しましたか?	
	希望の留学先は選びましたか?	
	出願に必要な語学スコアを取得しましたか?	
	留学先への申請書類は整えましたか?	
	入学許可証は到着しましたか?	
	ビザは申請済みですか?	
	航空券は取得済みですか?	
	変更可能な航空券を手配しましたか?	
	海外旅行傷害保険には加入しましたか?	
	現地通貨、クレジットカード、携帯電話の用意は整いましたか?	
緊急連絡先をリスト化しましたか?		
留学へ出発		

